



こかげのにちじょう③

～どこで分かれてしまったのかなあ～

鳴海 明敏

2月某日

今年度は、高校三年生男児4名と中卒男児2名の合計6名が、年度末にかけて退所する。退所後は、障害者サービスのレールに乗って、グループホームや自立生活援助施設で生活しながら作業所に通うことになる。現在その方向で、相談支援事業所に入ってもらい話を進めている。複数の相談支援事業所に入って貰っているが、うちで勤務経験のある相談支援専門員がいる事業所とは意思疎通がスムーズのように見える。

このほかに、小学校卒業を機に、次の施設への移し替えになる児童が男女各1名の合計2名と中学生男女合計3名も退所する予定。中1の男児は次の施設へ、中2の女児と中3の男児は、それぞれの自宅へと退所していく。

合計11名の退所になるので、退所先の施設との調整や児相、保護者との調整など、これから来月にかけて、何かと忙しい。

そのせいなのかなあ、今年はまだお雛様が飾られていない。

2月某日

2年前に同時期に退所した女児2名から、相次いで電話があった。

一人は、関東圏で生活する父親に引き取られ、その地域で障害者サービスのレールに乗っていたはずだったが、今は、ホストの彼氏と付き合っていて、風俗で働いているという。1日6万ぐらいしか初めは稼げなかったけど、今は80万～90万もらうこともある。それをホストに使っているとのこと。

学園にいたころから、将来はキャバ嬢になると言っていた彼女だから、当然の成り行きとは思うものの、父親へ引き取らせてよかったのかなあと思う。

もう一人の彼女は、退所後、県内で障害者サービスのレールに乗って生活していて、何か

あればちよくちよく電話をしてきて、自分の気持ちを整理したり相談したりしていた。現在は、2か所目のグループホームで生活し、作業所に通っている。新しい作業所では安心して過ごせているとのこと。

昔だったら嫌なことばかりに目がいていたが、今は余裕が出来てきて、フラットに考えられるようになったとのこと。前の作業所にいた頃は大変だったが、それも必要な経験だった、と思えるようになったと話している。

同じ期間学園で生活し、同じ時期に退所した二人だが、いつの間にか、道が分かれてしまった。一体、どこで分かれてしまったのかなあ。

(了)